

患者さんへ

「腎梗塞の造影欠損パターンと抗凝固薬内服の関係性の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2013年4月から2023年12月までに当院で施行された造影CTで腎梗塞(疑い含む)と診断された方
2 研究目的・方法	<p>腎梗塞は、心臓や大動脈近位部からの塞栓、腹部外傷、腎動脈の内在性病変などが原因となり、腎動脈またはその分枝の腎血流が急性に途絶えることによって生じます。様々な原因が腎梗塞を引き起こしますが、心房細動はこの疾患の重要な危険因子で、全体数の約半分程度にのびります。</p> <p>腎梗塞は、造影CTでさまざまな造影パターンをとり、その臨床的特徴は明らかにされておらず、また典型的な造影パターンを呈さない症例については診断に苦慮することも多いのが現状です。</p> <p>この研究は、当院で腎梗塞と診断された患者さんのデータをもとに、腎梗塞の造影パターンと臨床的特徴(特に抗凝固薬内服)との関連性を検討することを目的におこなうものです。本研究により、CTの読影時に非典型的な画像所見を呈するリスクの抽出や、より適切な画像診断が可能となる可能性があります。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2024年3月)後~2027年12月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、身長、体重、BMI、受診時血圧、既往歴、内服薬、喫煙、飲酒、来院時の症状、血液・尿検査所見、腎梗塞の原因、造影CT所見、治療、転帰、初診から確定診断まで要した時間 等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 持田 泰寛 湘南鎌倉総合病院 腎臓病総合医療センター 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717</p>